

資料6

旭川市廃棄物処分場の放流水自主基準値見直しについて

令和4年度の会議において、旭川市廃棄物処分場の放流水自主基準値の見直しについて提案があり、これまで「自主基準値を設定した背景と目的」や「自主基準値を見直した場合のメリット」等について確認し、議論を重ねてきました。

前回の会議では様々な意見が挙がり、会議としての方針決定に至らなかったため、継続審議となっています。

これまでの御意見

賛成	<ul style="list-style-type: none">・自主基準値の対象は有害物質ではなく、また、水量の対比から、基準値を改定しても処理水が河川に影響を与えようがない状況である。・この会議は、様々なデータを元に議論を行い、科学的な合理性を持った結論を見出して市に提案するという役割を担っているので、ここでの結論はその趣旨に則ったものとしたい。・この会議で行ってきた市への提案や地域住民への説明等により、中園処分場の基準値改定や環境調査項目の整理など大幅な経費節減を計ってきた経過を踏まえて、削減可能なものは何かと考える財政的な視点も必要。
反対	<ul style="list-style-type: none">・地域としては現処分場の自主基準値は埋立期間中は現行のまま継続するという認識があるため、埋立を終了する令和12年3月以降に提案していくべき。・行政が定めた「自主基準」という約束を、自ら反故にするかのような印象を与えてしまい、それが行政への不信感に繋がると考えられるため。
その他	<ul style="list-style-type: none">・科学的根拠だけではなく、処分場設置当初の協定締結に至った経緯や背景等も含めて整理をした上で協議を進めることが重要。・データだけではなく、過去の軋轢から未だ不信感が残っているという状況も踏まえて検討していくことが必要。